

LIBRARY

ライブラリーからの
新着図書のご案内

新着図書「ポジティブ」

貝谷 京子 著／幻冬舎メディアコンサルティング(2021年)

タイトルの「ポジティブ」はスペイン語の”POSITIVO”。

主人公の日本語教師ショウコは、日系3世のフリオとの出会いを通して、彼が生まれ育った南米アルゼンチン、ブエノスアイレスの街をこの目で見てみたいと思った。日本から彼の地へ向かう機内で出会ったトモコが彼女の滞在の行方を決定づける。果たして彼女はポジティブ(=ポジティブ)な生き方を見つけられるのか。

フリオやトモコ、そしてアルゼンチンでの新たな出会いの中で、ショウコは日本語教師らしく言葉の問題をさりげなく語る。母国とは、そして母語とは何のかと。

「フリオ」という音はスペイン語で「冷たい」という意味らしい。本人は嫌だとしても日本人には発音できない言葉もあるし、沖縄(方言)のイントネーションや日本の言葉、スペイン語が混在した会話が耳の中でコロコロ転がる一、そんな魅力的なシーンがあちこちに登場する。また、「フクシマ」や「言葉」を通して思いを馳せる故郷など、考えたい事柄が宿題のように残る。

ブエノスアイレスのボカ地区にある小径カミニートの街並みや「世界で2番目に美しい本屋さん」に選ばれた

エル・アテネオ・グランド・スプレンドィッドは、ぜひ訪ねてみたい歴史的な名所だ。ちょっと遠いけれど、そして今はコロナ禍で行きたくても行けないからこそ、物語の中であなたもブエノスアイレスに出会ってほしい。それこそ「ポジティブ」で一。

